

## 4000万人の頭痛 142

## 千夜一夜の頭痛物語

新型コロナウイルス禍も明けて久々のスタジオ生出演がもたらした幸運といえる出来事

文 清水俊彦

text by Toshiko Shimizu

偏頭痛と高血圧の既往歴のある40歳代男性の頭部MRA画像



左前交通動脈分岐部に小さな脳動脈瘤を認める(赤丸印)

うちの家内は、局の番組担当の方々や局の偉い方々との挨拶で、私とはまた別の多忙さであったようです。

無事に生収録を終えて控室に戻ったところ、家内がある男性プロデューサーの方を私の元に連れてきました。伺うところによると、この男性は、元来頭痛持ちで、頭痛の前に視覚前兆というチカチカした閃光を伴う、いわば火山の噴火を伴うような最も激しい片頭痛持ちだったようです。番組内の私に話を聞いて、家内に受診の相談を持ちかけたようでした。通常このような視覚前兆を伴う片頭痛の頻度は、あっても1〜2カ月に1回ぐらいであることが多いのですが、この方は月に4〜5回ぐらいの高頻度で発作があるようです、さすがの頭痛持ちの家内も高頻度に起こる頭痛発作に疑念を抱き、受診を勧めて私の元に連れてきたようでした。後日、精査の結果、片頭痛と別の二次性頭痛の原因となり得る因子が発覚したのです。通常、片頭痛は一次性頭痛。すなわち痛いけれどもその頭痛自体で生命予後に危険を及ぼすことのない頭痛なのですが、二次性頭痛とは、頭痛の原因となり得る異常があり、その原因を治療しなければ治癒せず、またときに生命予後に重大な影響を及ぼすリスクもある頭痛なのです。この方の場合、予防的投薬を開始し、改善傾向にあり、また頭

新型コロナウイルス禍の渦中もテレビやラジオ出演の依頼は多々ありましたが、感染対策の一環としてスタジオに直接出演することはなく、オンラインや電話での出演が多かったのです。しかし、7月に入り、某テレビ局のモーニングショーから「頭痛」の特集を行いたいとの相談があり、しかもスタジオ生出演で解説してほしいと依頼がありました。思えばほぼ3年ぶりのスタジオ生出演、その臨場感たるやオンラインや電話出演とは比べ物にならない緊張感にあふれているため、快諾したのは言うまでもありませんでした。早速、診察の間を縫っての打ち合わせや前振りビデオ収録など、怒涛の2週間ともいえる時間があっという間に経過しました。付き人として同行した頭痛

部MRA検査にて発覚した脳動脈瘤はただ微小なため、血圧をコントロールし破裂のリスクを未然に回避すべく、定期的なMRA検査を実施することで経過観察となりました。

頭痛持ちの方、一度は専門を受診して正しい治療と精査をお勧めいたします。

### Profile

日本脳神経外科学会認定医、日本頭痛学会監事を歴任。日本頭痛学会認定専門医。東京女子医科大学病院脳神経センター頭痛外来客員教授、獨協医科大学神経内科学講座臨床准教授、一般社団法人グリーンケアパートナー理事。

ほかに、汐留シティセンターセントラルクリニック、阿見第一クリニック、小山すずきの木クリニック、マミーズクリニック、伊豆大島医療センターの頭痛外来を担当。

昭和61年3月日本医科大学卒業。学会活動をはじめ、NHK「きょうの健康」「クローズアップ現代」など、テレビ出演も多い。『頭痛女子のトリセツ』（マガジンハウス）をはじめ、頭痛関連の著書多数。



新刊「マンガでわかる 頭痛・めまい・耳鳴りの治し方」  
監修/清水俊彦 推薦/佐渡島庸平  
新紀元社 (1,100円(税込)) 販売中。

